

活断層見学会

丹那断層/神縄断層/国府津-松田断層



日本免震構造協会入力地震動小委員会の活動として
2004. 5. 28～29.

丹那断層 (1)

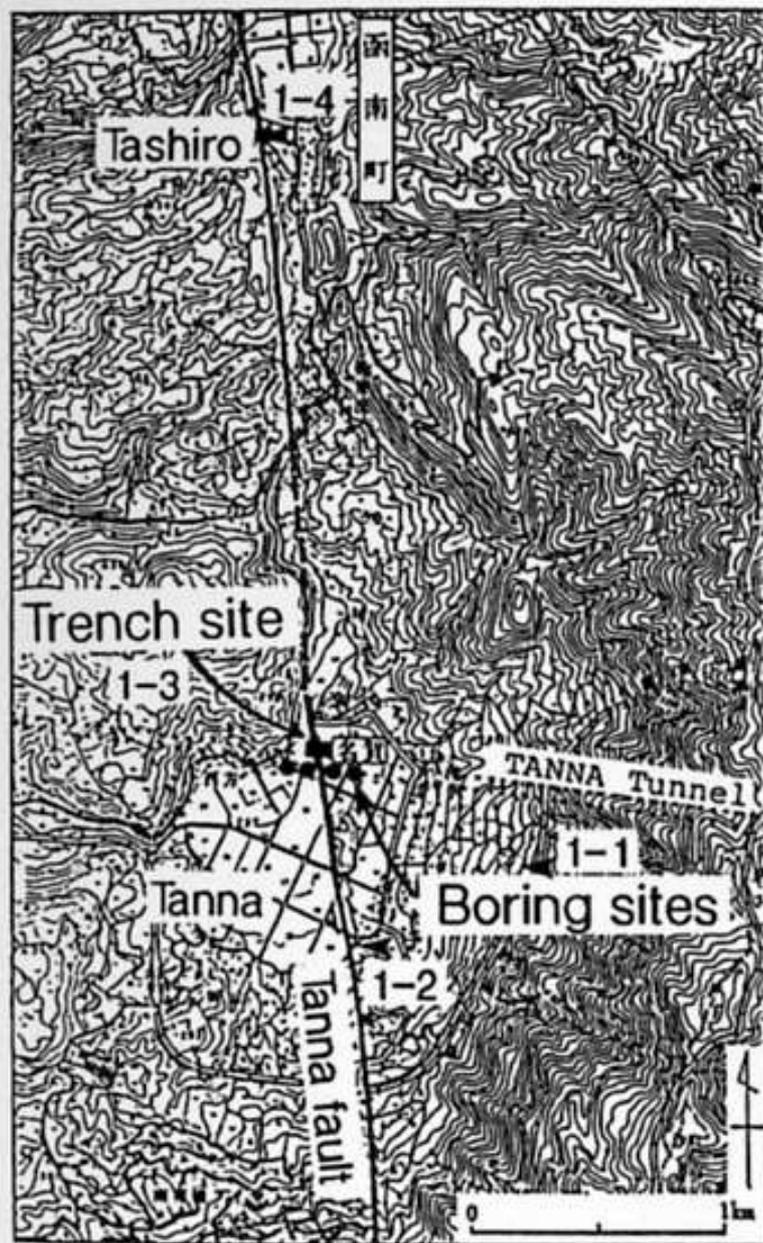


Fig. 1-5. Topographic map showing the location of sites 1-1 to 1-4 along the Tanna Fault.

丹那断層(2)



天然記念物・指定地

国指定天然記念物

たんなだんそう

丹那断層と北伊豆地震

昭和十年六月七日指定

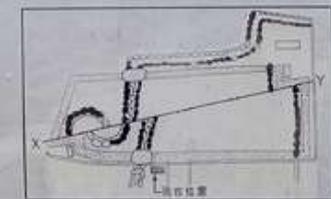
北伊豆地震は、昭和五年(一九三〇年)十一月二六日午前四時〇二分に発生しましたが、本指定地はその時に活動した丹那断層のずれの跡を良く示す場所です。

北伊豆地震の規模はマグニチュード七・三、震源は丹那盆地付近の地下〇・五キロメートル、震央付近の震度は六という、直下型の大地震でした。

この時動いた丹那断層は、箱根芦ノ湖から修善寺町まで続く、長さ約三十キロメートルの丹那断層帯の代表的な断層です。

丹那断層は、東京大学地震研究所により三回の発掘調査が行われました。その結果、過去六〇〇―七〇〇年間に小さな活動も含めて九回の断層活動があったこと、その中には「続日本後記」に記録の残る承和八年(八四一年)「伊豆国大地震」の震源が丹那断層であることもわかってきました。

丹那断層は、このように約七〇〇―一〇〇〇年の周期で活動が繰り返されてきて、一〇〇〇年に二メートルの割合で左横ずれを続け、約五〇万年前から現在までに左横ずれ一キロメートル、西側地塊が一〇〇メートル以上隆起したと推定されています。したがって本断層は地震断層であると同時に、最近地質時代にくり返し活動してきた活断層です。



ここは函南町畑字乙越地内、当時の大塚兼五郎氏宅地跡になる。石で囲んだ円形の塵捨場、石積みみの水路、水田との間の石垣が図のX-Yを境にしてずれた跡がよくわかる。石積みみの一部は震動によって移動したり、ずれ落ちたりした。そこでもともと石があった場所には代替の石(ここで使われた暗褐色の安山岩とは異なる白色珪質の岩石、上図では○で示す)を置いて地震前の状況をわかりやすくした。

丹那断層 (3)



丹那断層遺跡公園

丹那断層(4)

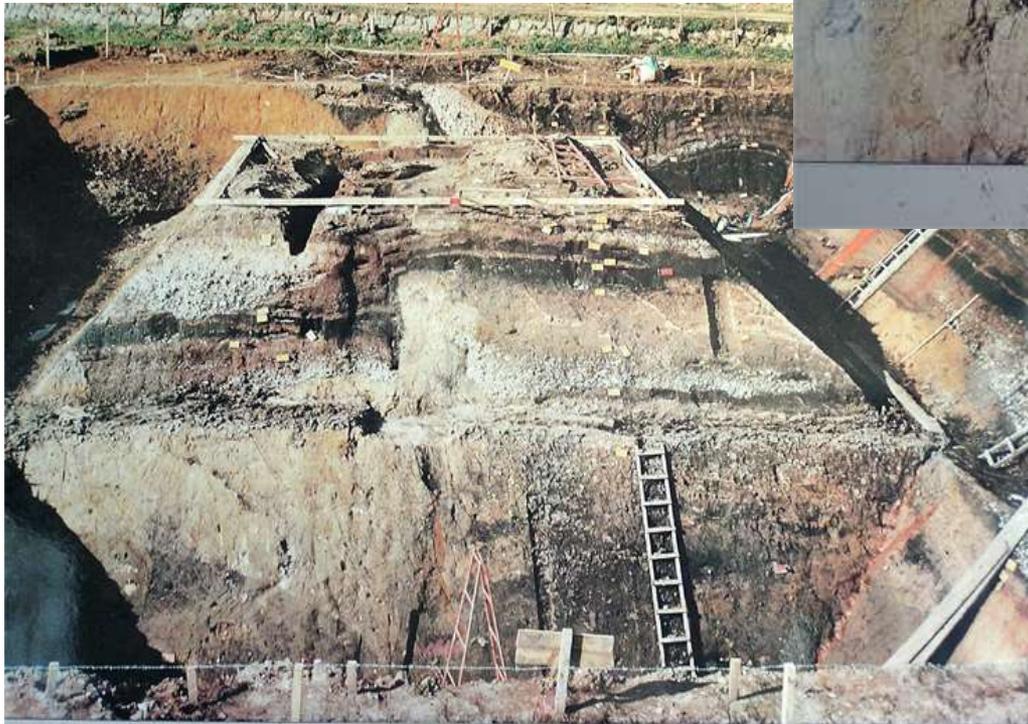


丹那断層上の民家

丹那断層 (5)



トレンチ内壁面



断層の様子が三次元的にわかるトレンチ

丹那断層(6)

